

原発事故による「風評被害」農産物の流通をめぐる受苦（パトス）の共有

網中 奈美江

(京都大学大学院文学研究科グローバル COE 研究員)

2012 年 11 月



京都大学グローバル COE

「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」

Global COE for Reconstruction of the Intimate and Public Spheres in 21st Century Asia

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科

Email: intimacy@socio.kyoto-u.ac.jp URL: <http://www.gcoe-intimacy.jp/>

Abstract

本研究は、福島第一原発事故によって生じたいわゆる「風評被害」農産物の消費や販売をめぐる、生産者、消費者、市場関係者等がどのような「苦しみ」を抱え、そして互いの「苦しみ」をどのように共有したのかを聞き取り結果に基づいて明らかにするものである。原発事故の直後、農産物が「風評被害」を受けているのか、それとも放射性物質による「実害」があるのかを断定できない状況において、生産者を支援したいと思った消費者、市場関係者等が多数存在した。また、逆に消費者のことを考えて販売にためらいを感じていた生産者もいた。本研究では、それらの生産者、消費者、市場関係者等が抱えていた「苦しみ」はどのようなものであったか、そして生産者、消費者、市場関係者等の間で互いの「苦しみ」がどのように共有されたのかを明らかにするために、①「風評被害」対策直売会の生産者、消費者、市場関係者等、②原発事故以前から「顔の見える関係」で直接取引を行っていた生産者と消費者、の二群から聞き取りを行った。特に、以前から直接取引を行っていた生産者・消費者からの聞き取りでは、「顔の見える関係」下での特有の「苦しみ」の共有の問題点が浮かび上がってきた。最後に、生産者、消費者、市場関係者等の「苦しみ」の共有について親密性と公共性という観点から考察を行った。

キーワード 福島第一原発事故、「風評被害」農産物、「苦しみ」の共有

2011 年度次世代研究「原発事故による『風評被害』農産物の流通をめぐる受苦（パトス）の共有」（研究代表：網中奈美江）による成果である。

【メンバー】（ ）内は 2011 年度プロジェクト時点

網中 奈美江（京都大学大学院文学研究科グローバル COE 研究員）